

愚か者が遺した^{のこ}懺悔^{さんげ}

作詞 J'Soul (浅羽一)

衝動のナイフを右手で掴み取り 君の心に^{やいば}刃を突き立てた
左手で君の肩を抱き寄せながら
欲望のナイフを右手に握りしめ 君の優しさに刃を突き刺した
左手に君の肩を感じたままで
自由にならない希望や夢に苛立ちを覚えて
自分勝手に自由に叫んだ 感情のままに誰かを傷つけた
偶然に恵まれた力を自分のものと自惚^{うねぼ}れて 周りで誰かが涙を流しても
あまりにも透明で僕の瞳には映らなかった
…いや本当は気付かないフリをしていただけで
叶わない想いなら知らないままで過ごしたかった
届かない想いなら気付かないままで死んでいくかった
壊してしまう愛しさを 見つめる事しかできないのなら
いっそ壊れてしまいたかった いっそ壊れてしまいたかった

唇の動きを横目で盗み見て 君が望む『運命』を^{よそお}装った
口づけの数を胸に刻み込みながら
眼差しの行方を横目で覗き込み 君が歌う『未来図』を書き替えた
口づけの数で胸を飾り立てたまま
錆^{てんびん}びた天秤に未来と今の二つを吊^{つる}した
先の見えない不確かな未来を 壁に囲まれた傷だらけの今を
三つ子の中で一人残された過去が後ろから必死に 適当に笑う僕を追いかけた
幼^{おきなごころ} 心が描いた折れそうな線路を消さないため
…線路を描くクレヨンもきらめきも失ったのに
■繰返し

傲慢^{ごうまん}な英雄を気取っていた 臆病^{ぐしゃ}な愚者の懺悔^{うた}の詩が
今頃になって心から口から 無理矢理伸ばした指の先から
ぽろりぽろりとこぼれて消える
唯一聞いて欲しい君はもう此処^{ここ}にはいないのに…

■繰返し

いっそ壊れてしまいたかった…